ＥＳＤ学習指導案　第６学年　総合的な学習の時間

奈良市立平城小学校　　教諭　　奥戸　貴裕

１．単元名　　私たちの住む平城地域の魅力を多くの人に伝えよう

２．単元の目標

・これまで地域を探究してきたことを活かし、平城地域の人・もの・ことについての魅力を理解する。（知識・技能）

・平城地域にある魅力ある場所を選択し、自分たちの言葉で地域の人たちにわかりやすく発信する。（思考・判断・表現）

・平城地域に関心をもち、魅力を発見し、それを多くの人に伝えようとする態度をもつ。（主体的に学習に取り組む態度）

３．単元について

（１）教材観

これまで本校の総合的な学習の時間では系統的に ESD に取り組み、「地域を巻き込む子どもの参画」を生み出し、平城地域をよりよい街にしていこうとする態度や学習指導要領前文にある「持続可能な社会の創り手」の育成を目指してきた。３年生では「古墳群」「平城宮跡(校区外)」「瓦窯跡地」など文化財を通した ESD を行うなかで、地域で受け継がれてきた大切なものを守り伝えるために、地域へ発信してきた。４年生では「秋篠川」のプラスチック汚染問題に触れながら、問題の解決と秋篠川の環境を守る秋篠川宣言を地域に発信し呼びかけた。５年生では、地域の米作りから「耕作放棄地」問題を探究し、地域課題の解決に向けた地産地消や、地域の農地が守ってきてくれた田んぼの様々な役割を大人たちに発信してきた。６年生では平和学習や万葉集を切り口にして、総合のまとめとして自分たちの生き方に迫り、よりよい社会づくりや平城地域への参画を考えてきた。しかし、コロナ禍により、縦割り活動の縮小や修学旅行の行き先の変更など、教育課程に位置付けられた学習の再編の必要性が出てきている。

本年度は、コロナ禍で制限された活動のなかで、「住みよさ」の観点から地域の魅力を探究し、地域社会に参画することの大切さを発信していく。なぜなら、平城地域の魅力は、地域の文化財や自然環境はもちろんであるが、安心して暮らせる「住みよさ」と、それを維持していくために努力している「地域に参画する大人達」が魅力であるからだ。しかし、子どもたちは、平城地域の「住みよさ」が当たり前になっているので、その魅力を意識していないし、地域に参画する重要性についても考える機会がないのが現状である。住宅開発が進み、新たに住む人が増える平城地域であるが、地域の「住みやすさ」を守る町内会や自警団などへの参加者が年々減少し、地域参加が課題になっている。また、近年地域のお祭りに子どもの参加が少なくなってしまったことも課題である。

そこで、本学習では課題解決に向けて地域の魅力である「住みよさ」に気づくために、まずは「観光」の観点から地域を見つめることから追究を始める。子どもにとっても考えやすい観光の

目線で地域の魅力を探していくことで、平城の魅力は文化財や自然環境だけではなく、生活者の「住みよさ」とそれを守る人の営みに気づくだろう。これにより住みよい街づくりへの参加・参画への課題に出会い解決に向けて行動してくことにつながると考えるからである。

この目的を達成するために、２つの教材化を行う。１つ目は１学期に行った修学旅行先で出合わせた「和歌山県白浜地域」についての魅力である。発信活動のモデルとなる和歌山県白浜地域の魅力は自然と観光の調和と融合と考える。修学旅行では１日目に白崎海洋公園、２日目に白良浜に行き、同じ太平洋でも眺望がまったく違うというところから、自然の壮大さを気づかせた。また、アドベンチャーワールドは日本でも珍しい動物園、水族館、遊園地が一体となった複合施設である。多くの観光客が訪れるこの施設にはどのようなしかけがあるのか、体験を通して、その魅力を探らせた。いずれも、自然と観光をうまく絡ませて、観光客を楽しませてくれる工夫がたくさんあった。また、アドベンチャーワールドでは SDGs の達成に地域から努力している。平城地域においても文化財と環境と観光客の調和と融合は、共通する考え方である。修学旅行において SDGs11「住みよいまちづくり」のモデル地域として修学旅行を活かし現地で学ぶことで、さらなる教育効果の高まりを目指すことができるだろう。

２つ目は、観光に従事し、様々な視点から観光地の魅力を伝えたり、旅行を企画したりする奈良交通の小久保麻優氏をゲストティーチャーとして迎えることである。小久保氏は、経営企画のエキスパートであり、様々な観光地を多くの人に PR するのに精通している。その際には、利用者の立場に立って、観光地の魅力をわかりやすく発信している。このように地域の魅力を発信する人の営みに出会うことで、地域の魅力を発信し地域社会に貢献する営みに憧れ、子どもたちでは普段気づくことができない視点から、地域の新たな魅力を発見するのにつながると考えた。また、今回、リーフレットでまとめる子どもたちにとって、観光業のプロはどういう視点でリーフレットやパンフレットなどを作成しているのかも小久保氏に説明していただくことで、２学期以降の平城地域の魅力をまとめる際にも、意識をさせたい。

（２）指導観

平城地域の魅力を探究から、「住みよさ」という地域の魅力に気づき、それを守っていくために平城地域に参画できる態度を育むために、３つの学習活動を工夫する。

１つ目は、ストーリーのある導入の工夫である。１学期に和歌山県白浜地域への修学旅行では、教員も一緒になって地域の魅力を味わった。事後学習では旅行会社である奈良交通さんと連携して修学旅行を通して自分たちが楽しんだ場所について新たに「魅力」として捉えなおすために「和歌山県について」を班でリーフレットにまとめさせる活動を設定した。自分たちが感じた魅力を班内で共有するのは、お互いが同じ経験者なので容易にできるが、それを行ったことのない人に発信し、和歌山県を知るきっかけになってもらうために観光会社の社員になったつもりで、１枚のリーフレットにまとめさせた。まず、和歌山県の魅力を伝えるリーフレット作りでは、レイアウト、文体、題名、小見出し、資料の使い方などを読み手の立場に立って考えさせる。文字数も制限されるため、自分が本当に伝えたいことをまず整理させて、そこから、読み手が知りたい情報は何か想像させて書かせる。書いた内容は、必ず班内でお互いに確認し合い、読み手を意識できているか考えさせる。今回は読み手のターゲットも前もって自分たちで考させた上で、毎

時間のワークシートにそれを書かせてから、取り組ませる。そうすることで、読み手を意識しながら、考えられるはずである。その後、ゲストティーチャーとして来ていただいた奈良交通さんにご講評とリーフレット作りのポイントの話をしてもらう。このように紙面における伝え方を捉えること、人に地域の魅力を伝える営みに出会わせることで、平城地域の魅力発信への意欲を高めた。

２つ目は平城地域の魅力を探究する工夫である。実際に校区を歩き、校区にある魅力ある場所へ行くことで気づくことを第一とした。第二として、修学旅行先の和歌山と平城地域の比較をして、地域を観光の視点から見た課題に気づく活動である。修学旅行で訪れたことで和歌山と校区の違いを見つけやすいと考えた。写真や経験などから修学旅行で訪れた和歌山県白浜地域は観光資源が豊富で観光客が多いことに気づく。一方で本校区は、世界遺産である平城宮跡からは約３ｋｍ離れ、決して観光資源が豊富とは言えず、観光客もほぼ見当たらないのが現状である。しかし、だからといって子どもたちが「平城地域には魅力がない」とは感じないだろう。なぜならこれまでに子どもたちは平城地域の「人・もの・こと」に出会い、憧れ、大切にしたいという学びをしてきているからである。またこれまでの学びで光があたらなかった地域の様々なものにも、子どもたちは魅力に感じているものがたくさんあることにも気づかせたい。人が感じる魅力というのは観光資源だけではなく、五感に訴えかける何かがあるときである。何気ない風景、匂い、音など身近にある自分が感じる素敵なものを発見させることで、なぜそれが魅力なのかに迫り、「地域に当たり前のようにあった自然環境や文化財、人」が地域にあることについて幸福感に敏感になり、地域の大切さに気付かせたい。普段、当たり前だと思っていたものの良さを気づくことができれば、郷土を愛する気持ちや、郷土に対する誇りをもつことにつながる。

３つ目は、学習を通じて地域の方に子どもの思いを発信していくなかで、魅力ある平城地域の「住みよさ」を大切にしていくために自分たちができることをいっしょに考えていく。ここまで観光という視点から地域を見つめていた児童に、平城地域の魅力を支えているものに「住みやすさ」があることに気づかせ、それを維持していこうと努力している町内会の方々の営みに出会わせ憧れさせたい。そのために自分たちが考える地域の「住みよさ」だけでなく、保護者にアンケートを取り、大人が考える「住みよさ」にも気づかせる必要がある。子どもと大人の考えには共通点だけでなく、相違点もあると予想されるので、それを議論させ、みんなにとっての「住みよさ」とは何か結論を出させたい。その後、子どもたちの発信を、平城地域の町内会に伝え、「住みよさ」を守るために大切な方法である地域参画や、近年の地域参画者の人数減少の課題の解決に向けて考え行動につなげる。最後に、子どもの行動を本校が連携している川上村森と水の源流館や近畿ESDコンソーシアムの有識者に評価してもらうなかでSDGsとして価値づけしていくことで「住みよさ」についての考え方をさらに深めていきたい。

（３）ＥＳＤとの関連

・本学習で働かせるＥＳＤの視点（見方・考え方）

【相互性】平城地域にある魅力のある場所があり、様々な願いや思いが重なりあって、その場所が守られていることに気づく。

【連携性】平城地域にある魅力を発信し、多くの人に気づいてもらうことで、いっしょに大切に

していこうとする。

・本学習で育てたいＥＳＤの資質・能力

【クリティカル・シンキング】自分たちの住んでいる平城地域には、まだまだ魅力のある場所はたくさんあると気づき、それがなぜ魅力なのか考え幸福感を発信できる。

・本学習で変容を促すＥＳＤの価値観

【世代間の公正】地域の魅力を自分たちの世代だけでなく、多くの人に発信することで大切にしようとする。

【幸福感に敏感になる、幸福感を重視する】地域に当たり前のようにあった「自然環境や文化財、人」が自分の生活と深く関わっていることに気づき、大切にしていこうと考える。

・達成が期待されるＳＤＧｓ

目標１１　住みよいまちづくり

４．単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①平城地域の魅力ある場所があるかを理解し、学習発表会を通して地域の人に説明することができる	①地域にある魅力ある場所を人に伝えるために、ゲストティーチャーとの学習を活かし考えることができる。	①これまで学習で取り上げた地域の魅力だけでなく、地域の新たな魅力を発見するために、探究する。

５．単元の指導計画（全３７時間）

次	主な学習活動	学習への支援（●）	評価（△） 備考（・）
1学期（12）	○総合のテーマ、学習計画を理解する。 ○修学旅行後、和歌山県の魅力を確認する。 ○学習問題を作る。	●しおりに書いた内容を基に、思い出させる。	
	どうやったら和歌山県の魅力をリーフレットで伝えられるだろうか		
	○和歌山県の魅力をリーフレットにまとめる。 ○ゲストティーチャーとして奈良交通さんを招く。	●奈良交通さんはどのような視点でPRをしているのか、また、自分たちのリーフレットの改善点を気づかせる。	

2学期（15）	○３年からの既習の知識を確認し、学習問題を作る。 ・平城地域にも和歌山みたいな魅力がある？ない？ 平城地域にある魅力ある場所はなんだろうか ○自分たちでコースを決めて、フィールドワークを行う。 ○自分たちが感じた平城地域の魅力をまとめる。	●観光地だけでなく、自分にとって素敵だと思える場所でも良いと気づかせる。 ●住んでいる自分たちだからこそ気づいたことを書かせる。	△ア１・ワークシート △イ１・ワークシート
3学期（10）	○平城地域の魅力を発信する。 魅力ある平城地域を大切にしていくために自分たちができることは何か ○保護者にアンケートを取る。 ○自分たちの考えと保護者のアンケートの結果を比較して、共通するもの見出す。 ○平城地域の魅力である「住みよさ」について考え、課題の解決に向けて行動する。 ○地域課題の解決に向けて参画の大切さを発信した活動について SDGs11「住みよいまちづくり」の視点から考える。	●他の人が感じる平城地域の良さに気づかせる。 ●共通する点に目を向けさせ、多角的に捉えながら、平城の魅力に生活者の「住みよさ」が共通していることに気づかせる。 ●平城の魅力である「住みよさ」について町内会の方に伝え評価をいただく。 ●町内会の方から「住みよさ」を守る行動として地域参画している営みや、参加・参画者が減少している課題を聞き、課題の解決に向けて一緒に考える。 ●地域の博物館や有識者に協力いただき、発信を SDGs の視点から価値づけしてもらう。	△ウ１・発表、ワークシート